

PATENT COOPERATION TREATY

PCT

INTERNATIONAL PRELIMINARY REPORT ON PATENTABILITY

(Chapter I of the Patent Cooperation Treaty)

(PCT Rule 44bis)

Applicant's or agent's file reference IPS04P02301	FOR FURTHER ACTION		See item 4 below
International application No. PCT/JP2005/005926	International filing date (<i>day/month/year</i>) 29 March 2005 (29.03.2005)	Priority date (<i>day/month/year</i>) 31 March 2004 (31.03.2004)	
International Patent Classification (8th edition unless older edition indicated) See relevant information in Form PCT/ISA/237			
Applicant MITSUBISHI MATERIALS CORPORATION			

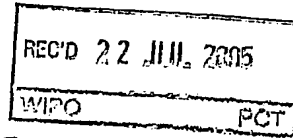
1.	This international preliminary report on patentability (Chapter I) is issued by the International Bureau on behalf of the International Searching Authority under Rule 44 bis.1(a).		
2.	This REPORT consists of a total of 5 sheets, including this cover sheet. In the attached sheets, any reference to the written opinion of the International Searching Authority should be read as a reference to the international preliminary report on patentability (Chapter I) instead.		
3.	This report contains indications relating to the following items:		
	<input checked="" type="checkbox"/> Box No. I	Basis of the report	
	<input type="checkbox"/> Box No. II	Priority	
	<input type="checkbox"/> Box No. III	Non-establishment of opinion with regard to novelty, inventive step and industrial applicability	
	<input type="checkbox"/> Box No. IV	Lack of unity of invention	
	<input checked="" type="checkbox"/> Box No. V	Reasoned statement under Article 35(2) with regard to novelty, inventive step or industrial applicability; citations and explanations supporting such statement	
	<input type="checkbox"/> Box No. VI	Certain documents cited	
	<input type="checkbox"/> Box No. VII	Certain defects in the international application	
	<input type="checkbox"/> Box No. VIII	Certain observations on the international application	
4.	The International Bureau will communicate this report to designated Offices in accordance with Rules 44bis.3(c) and 93bis.1 but not, except where the applicant makes an express request under Article 23(2), before the expiration of 30 months from the priority date (Rule 44bis .2).		

The International Bureau of WIPO 34, chemin des Colombettes 1211 Geneva 20, Switzerland Facsimile No. +41 22 338 82 70	Date of issuance of this report 04 October 2006 (04.10.2006)
	Authorized officer Yoshiko Kuwahara e-mail: pt07@wipo.int

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人 三菱マテリアル株式会社 様
あて名 〒330-8508 埼玉県さいたま市大宮区北袋町一丁目297番地



PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]

発送日
(日.月.年) 19.7.2005

出願人又は代理人 の書類記号 IPS03P02301	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
国際出願番号 PCT/J P 2005/005926	国際出願日 (日.月.年) 29.03.2005
	優先日 (日.月.年) 31.03.2004
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ B24B53/12, H01L21/304	
出願人 (氏名又は名称) 三菱マテリアル株式会社	

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

28.06.2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

今関 雅子

電話番号 03-3581-1101 内線 3324

3C

9529

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☐ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる

☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、
それを要する文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	4, 6	有 無
	請求の範囲	1-3, 5	
進歩性 (IS)	請求の範囲		有 無
	請求の範囲	1-6	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-6	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明

- 文献1: JP 2002-326165 A (旭ダイヤモンド工業株式会社)
2002. 11. 12, 特許請求の範囲, 【0015】, 図1-2
- 文献2: JP 9-225827 A (旭ダイヤモンド工業株式会社)
1997. 09. 02, 特許請求の範囲, 【0007】-【0011】,
図3, 7-8
- 文献3: JP 2002-331460 A (三菱マテリアル株式会社)
2002. 11. 19, 【0027】, 図3
- 文献4: JP 2001-71269 A (三菱マテリアル株式会社)
2001. 03. 21, 特許請求の範囲, 図1
- 文献5: JP 2004-25377 A (三菱マテリアル株式会社)
2004. 01. 29, 【0007】, 【0011】-【0012】,
【0030】

請求の範囲1-3, 5

国際調査報告で引用された文献1-3から新規性及び進歩性を有さない。

文献1の砥粒1が凸状突起3の仮想延長面よりはみ出さないのは、請求項2及び図面から明らかである。

また、文献1の請求項2の記載は、本願請求の範囲2-3の数値限定も満たしている。

さらに、請求の範囲1については、文献2もドレッサ製造過程におけるマスキングによって、砥粒は仮想延長面の内側に形成されていると認められる。

文献3は、【0027】と図3を参照。

請求の範囲5については、文献2には略環状の突部が記載されている。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

請求の範囲 4

国際調査報告で引用された文献 1-4 により進歩性を有しない。

文献 4 には、柱状に突出する突部が記載されているから、文献 1-4 の突部をこのような柱状突部とすることは当業者が容易になし得たことである。

請求の範囲 6

国際調査報告で引用された文献 1-5 により進歩性を有しない。

文献 5 の【0007】、【0011】-【0012】及び【0030】には、耐食性向上の為に、CMP コンディショナに環状パーフルオロ構造を有するフッ素樹脂でコーティングする技術が記載されている。